

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail kohitsuji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2010年3月20日

第 323 号

風と琴

理事長 稲松義人

先日、小羊学園の創立者山浦俊治氏が3冊の著書を出版するときにお世話になった地湧社から、「風と琴」という可愛らしい本が送られてきました。この本の著者は高草洋子さんといい、TV番組エチカの鏡で紹介された「びんぼう神様さま」という本を書いた方だそうです。江戸時代という設定の中で民話のような温かさがベースになっており、世間的には幸せに包まれた裕福な上方の商家を舞台に物語がはじまります。この家の生まれてまもなく足が不自由になった娘と、娘の幸せを願いつつ独りよがりの子育てをしてしまいう母親を中心に物語は展開します。不自由なからだで育ちながら、娘は琴に才能を発揮します。琴はハンディをもった娘に与えられた天分であり、また娘の奏でる琴の音は、内に秘められた娘の心を映し出します。娘は成人したあと、視力も失ってしまいます。目が不自由になったことで、より研ぎ澄まされた感覚をもつようになり、頬に感じる風を通して命の不思議な繋がりを感じ、娘の奏でる琴の音は、さらにその情感を豊かに伝えるようになります。

「風」は著者自身のあとがきによれば、「内側から聞こえてくる命の源からの声」を表すのだそうです。娘は奏でる

「琴」の音を通して周りの人たちの心を揺さぶり、命のもつ本来のあるべき姿を伝えます。母親もまた娘の奏でる琴の音を聞き、自らの生き方を省み、本来の母親としての愛情を取り戻していきます。病に倒れた母親は、娘が心に思う青年と再会し幸せになる姿を見ることはできませんでしたが、夫との信頼関係を回復し、娘に対する愛情においても本来の自分を取り戻し、心の安らぎを得て天に帰っていきます。

生前の山浦氏もまた、「小羊学園のこどもたちは不自由なからだで精一杯生きることで、自分のことを健常だと思っっている私たちに、『あなたの心、それでいいのですか』と問いかけていると思うのです。」と語りました。15年前、山浦氏の最期の病床でのあの表情の安らかさを思い出します。きっと山浦氏も「風」を感じる感性をもっておられたからではないかと思われまます。

思いがけず送られてきた1冊の本から、私自身も心が洗われたような気がし、最近の自分を反省させられました。自分なりに精一杯やっているつもりです。真面目に小羊学園の実践を少しでも良いものにしたいたいと思ひ、色々と語ります。またときにはその思いを文章にします。しかし、自分ひとりでは何もできませんから、直接利用者を支援する職員たちにも協力をお願いいたします。周囲の人たちにも協力を呼びかけます。支援する職員として求められて

いるものは何だろうかとか、知的障がいのある人たちの福祉はこうあるべきであるとか、理解してもらおうという思いからついつい多弁になってしまいます。

しかし、これでは職員たちはやがて疲れ果ててしまうということになりはしないだろうか、周りの人たちも段々と負担になりはしないだろうか、ふと思わされました。職員ひとりご自分の感性で障がいをもって生きる人たちの日常の姿の中から、自分たちの内面を揺さぶるような命の声を聞き取る。となしには、私たちのような仕事の本質的な喜びには至らないような気がします。本当の喜びを知った人は、おのずと言葉をもたない利用者さんたちの小さな変化から、彼らの声を聞き分けるようになるでしょう。

小羊学園が「風」を感じられるような空間であり、「琴」の音に耳を傾けるような時が流れる日常があれば、そこにつながりを持つ人たちも、自然に心が豊かに満たされていくでしょう。こここのところ雨の多い毎日です。少しずつ春が近づいているというのでしょうか。皆さまお一人おひとりの心が平安でありますように。

本の紹介

『風と琴』 高草洋子著 地湧社
2010年2月 1350円 (税別)

小羊学園 法人内研究発表会

小羊学園では、毎年、2月最終土曜日に法人職員を対象とした、研究発表会を行っています。今年も2月27日に行われ、6事業所からの事例発表とディスカッションをおこない、研鑽の機会となりました。発表された6事例のうち1事例を紹介したいと思います。

利用者理解

「Aさん」について

オリーブの樹
村松 幸子

私はオリーブの樹に所属し2年が経過しようとしています。同時期からオリーブの樹に通所し、パン工房と一緒に活動している『Aさん』について発表します。

ケース概要

Aさん、女性、今年成人式を迎えた20歳。浜松市内で生活されています。1週間の生活スタイルは月曜日～金曜日の日中は送迎車に乗車し、オリーブの樹まで通所していて、週末は自宅または、市内の入所施設でショートステイを利用しています。

障がい名は精神発達遅滞（自閉傾向）であり、療育手帳はA判定、障害程度判定は区分6。てんかんの基礎疾患を持っています。発作は過去に1回あったのみです。嫌いな食べ物がありません。

ガイモは家では食べずに残しているようです。オリーブの樹では給食を残したことはなく、ジャガイモも嫌いな顔をすることなく食べています。小さなことですが、ハサミの渡し方なども学んでいるようで、柄のほうを相手に向けて渡すことができるなど理解していることも多くあります。

Aさんは言葉を話す事ができません。内語（inner speech）を多く持っており、言葉での意思伝達の代わりに、マカトンサイン（ことばや精神の発達に遅れのある人の対話のために、イギリスで考案された手話法）・ジェスチャー、指さしなどでコミュニケーションをとっています。高校時代の先生の話によると、Aさんはコミュニケーション支援の難しい子だったようです。事実、高校卒業直後のAさんは、新しい環境に適応することが難しく、情緒的に不安定な日々が続きました。

今思えば利用当初は職員もAさんのジェスチャーの意味が分からずコミュニケーションがとれていなかったように思うのです。

オリーブの樹に通所して2年が経過しようとする中で、彼女との関わりを通し、私自身、多くの事を経験し学ぶ事ができました。今回はそのことを踏まえAさんに関する利用者理解とその経過および考察を報告します。

経過

① コミュニケーションの円滑化

Aさんは言葉による意思伝達ができず、思うように自分の意思を周りの人に伝えることができません。言葉の代わりに、マカトンサインやジェスチャーで表現されますが、本人独自の物がほとんどで、職員もジェスチャーの意味をなかなか覚えることができない状況



法人職員 60名ほどが参加しました

でした。Aさんにとってジェスチャーは言葉の代わりですが、うまく伝わらないことでストレスになる原因でもありました。

Aさんが参加しているパン工房は活動の中にパンの発酵時間があり約1時間の待機時間が生じます。その時間を利用して、ほぼ毎日散歩に出かけています。散歩は運動という意味もありますが、同時に息抜きや気分転換でもあり、みなさんの楽しみの一つにもなっています。Aさんも散歩では満面の笑みで出かけることができます。散歩という媒体を通して、職員とのコミュニケーションも増え、毎朝大きな声でジェスチャーを使い散歩の要求をしてくるようになってきました。

② 「見通しの持てる日課と役割」

Aさんは職員の意識が自分に向いていないと感じると、自分に目を向けるために、社会的に認めたいアピールをしてしまいます。自分に目を向けて欲しいという独占欲がある中で、Aさんに対して、生活の見通しが持てるように関わりを考えました。日課が見通せることで、情緒の安定を期待したのです。

まずは、好きな散歩を中心に「散歩に行く前にはこれと、これをやりませう。これをやってから散歩に行きましょう。」と前後の日課を伝えるようにしてい

ました。次の行動を伝えるだけでも安定につながり、自分から行動できるようになっていきました。

また、パン工房を自分の居場所だと明確にするために、ロッカーに各自の名前を記し帽子やマスクを自分で管理できるようにしました。ロッカーに自分の名前があるだけでこんなにも違うのかと思う位変化があり、自分から進んでパン工房まで来られるようになりました。

活動では、会話ができる人がどうしても前に出てしまう中で、パン工房の挨拶当番をAさんに担当していただき、作業にも積極的に加わることができ表情にも変化がみられるようになりました。以前は出来る事も出来ないというアピールをして職員との関わりを求めてきた場面が多くありましたが、パン工房では職員と一緒に作業ができています。コミュニケーションもとれる場所と理解したのか、Aさんが仲間を声をかけてもらいみんなの輪の中で作業ができるようになってきました。

③「サインやジェスチャーを通した関わり」

これまでの支援の中で、自分の意思が伝わらないことによるストレスが不安定になる大きな要因だと分かってきました。逆に、サインを理解し言葉で復唱すると、とても嬉しそうで行動も

軽やかになることが多くみられています。

Aさんとの関わりでは、相互の思いを確認しあうことが重要と考え、作業の中でも、パンの納品先を写真カードで提示したり、Aさんとの間でサインを作ったりして、言葉が無くてでも訴えが出来るように工夫しました。

最初は1つ2つのサインでのやり取りから始まりましたが、今では覚えきれないほどのサインを使っています。通所当初はサインに対して援助者も軽い気持ちで対応しており、日常で使う簡単なサイン（トイレ・パン・週末など）を理解しているだけでした。

パン工房での関わりを、他の活動の職員にも伝え理解してもらおうことで、少しでもみんなの中で会話ができれば



事例研究を報告する村松さん

Aさんの楽しみも増えて安定につながるのでほしい、様々な写真によるサインカードを作りました。パン工房の仲間もサインを真似て挨拶をしてくれたり、Aさんが、自分の意思が通じて会話に加わったりしたときは、特に安定し表情も良く過ごせていると感じています。

逆に、伝わらない時は面白くない顔をされたり、不安定な行動でのアピールにもつながりますが、以前よりその行動は軽くなっていると実感できています。Aさんとの付き合いが深まるにつれて、その時の表情や態度で心境や要因が分かるようになってきました。

最近では同じサインでも場面や環境によって、伝えたい内容が違い、何通りも意味があることに気がつきました。多くのことが通じるようになったことでAさんの訴えも多くなってきていますが、訴えの内容が良いことでも悪いことでも自分の思うようにならないと不安定につながるケースがあることが、課題です。

昨年10月以降、情緒不安になられる場面が多くなりました。生活や関わりに変化があったわけではありません。ただ、同時期に服薬の変更があったので、そのことが大きな要因ではないかと推測をしています。この時期は、ご家庭でも随分と困られたようです。オリーブの樹としては、Aさんに対して丁寧な説明していくこと、サインやジェ

評価

通所して2年間の生活や活動の様子から、Aさんは言葉の認知力や記憶力がある程度持っていることが分かりました。基本的な生活習慣も出来ており、スリッパをきっちり並べるなど、細かな部分にも意識を持っています。また、これまでの取り組みからサインやジェスチャーで意思伝達が可能なことも分かりました。

しかし、時には意思疎通がうまくいかず、感情を上手にコントロールできなくなり、不安定な状態になる時もあります。そういった場面では、日常的に行えている活動や職員の言葉が伝わります。ご本人にとっては、自分の思いや欲求を表現しても、伝わらないことによるジレンマがあると思います。なるべく不安定な状況を作らないためにも、職員は様々な形で、サインを確認しながら、必死に答えるように支援しています。

これまで関わってきた過程を大事にし、写真カードやサイン、先の見通せる内容提示など、Aさんにとっての不安定要素を取り除けるよう支援をして

いくことが大切だと感じました。そして、こうした取り組みを通し、コミュニケーションを深め、相互の信頼関係を築いていくことで、様々な物事にチャレンジしていくよう、働きかけたいと思います。

■ ■ ■ 考 察

Aさんの様子は、表情や表現方法など、日々何かしらの変化があります。それらを通所施設だけで解決していくとは考えず、常に保護者と連絡を密にして、対応していくことが望ましいと考えます。特に会話のできない方な

ので家での出来事とオリブの樹での出来事をお互いに細かく報告していけば保護者と一緒に支援でき、それが彼女にとっての良い支援になっていくと思うのです。また、地域で生活をしていく中で、ご本人を中心において、ご家族は勿論のこと、関係する事業所や病院が連携し、課題を共有し解決していくことが本場に大事だということを思い知らされました。今回の研究を通じて利用者理解の大切さを知り、ご本人を理解している



さをり はた織機

ご寄贈いただく

静岡新聞社・静岡放送「愛の都市訪問」福祉支援活動の21年度助成として、支援センターわかぎが「さをり織り」のはた織機2台を贈呈いただきました。3月10日にプレスタワーで行われた贈呈式には、利用者を代表してクニヨさんと職員1名が参加し、目録の贈呈を受けました。クニヨさんは、かなり緊張していましたが、良い経験ができました。



小羊学園 創立 44 周年感謝祭 & 小羊学園を支える会総会 ご案内

○ 小羊学園 創立 44 周年感謝祭

日 時 4月29日(木・祝) 午前10時45分～午後3時
 ところ 三方原スクエア(浜松市北区三方原町2709-12)
 内 容 記念礼拝・祝会(模擬店・バザー・ミニコンサート・アトラクション)

○ 小羊学園を支える会総会

日 時 4月29日(木・祝) 午後3時～午後4時
 ところ 三方原スクエア会議室
 内 容 小羊学園の現状報告

※小羊学園をご支援くださっている方はどなたでも参加できます。

編集後記

先日、浜北区の自立支援連絡会の総会に出席してきました。今年1年間の連絡会の取り組みを報告した後、聖隷クリストファー大学教授で、法人事務でもある、山本誠先生が「地域でくらす」という演題でご講演くださいました。先生の講演を聴きながら、様々な社会があることを感じ、その中で、グローバルな視点を持ちながら、自分たちができる身近なところから行動していくことの大切さを学びました。小さな単位で作られる社会の仕組みが大きな流れになることを期待しつつ、歩んでいきたいと思うのです。少しずつ暖かな日和になってきましたが、お身体をご大切に。(F)

小羊学園を支える会

2009年度寄付金報告

2月受付分 399,000円(29件)
 累 計 8,971,556円(556件)

小羊学園への寄付金振込み先

(口座名義)「小羊学園を支える会」
 郵便振替口座 00890-4-45415
 リソナ銀行浜松支店 (普通) 040005
 静岡銀行細江支店 (普通) 043483

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局(鈴木)
 三方原スクエア内 ☎053-414-1833